

活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】崖崩れのため二次避難場所への避難経路を変更		
学校名	周防大島町立久賀中学校		
日時	平成25年6月28日(金) 5・6時間目		
場所	グラウンド・防災センター	参加者	生徒・教職員・防災センター職員

1 訓練のねらい

- (1) 周防大島町は瀬戸内海に位置し、津波による被害は比較的少ないと言われている。しかし、1854年に発生した安政南海地震の際には、海拔10mから20mに位置する島内各所に残された祠のすぐ下まで津波が来たと言い伝えられている。本校は海拔2.6mの低地にあるため、毎年地震・津波が発生した場合の避難訓練を実施している。
本年度は、最短距離で高台に避難することに加え、避難速度の遅い女子や1年生男子を体力のある3年生男子が手を引くなど協力して避難する訓練と、山がちの地形で土砂崩れが起りやすいことから、避難経路が崩れているため避難経路を変更した訓練を行うこととした。
- (2) 大島防災センターが道路を挟んで隣接するため、山口県における施設の役割や災害からの避難のポイントや阪神淡路大震災の教訓を聞くことで、生徒の危機管理意識を高揚させることとした。

2 訓練の概要

- (1) 地震発生
- ア 状況
地震が発生し、地震警報が発令され避難勧告が出された。
- イ 安全確保
地震発生時の緊急放送
・「緊急事態です。緊急地震速報が発令されました。」
・「生徒は、机の下に避難し身の安全を守り、揺れが収まるまで待ちなさい。」
○ 教職員による生徒への指示を行う。
- (2) 揺れが収まる
- ア 避難
・「揺れがおさまりました。生徒はグラウンドに避難し、クラス別に集合しなさい。」
(建物から離れた場所を指定)

- 危機対応マニュアルに従い、避難経路及び教室等の確認を行う。



イ 点呼

- 生徒を整列させ、不在者・負傷者の有無及び欠席者の確認をし、教頭に報告する。



- (3) 津波発生
- ア 状況
津波警報が発令され緊急避難勧告が出された。
- イ 安全確保
津波発生時の緊急連絡
・「緊急事態です。津波警報が発令されました。今から二次避難所に走って避難します。」(ハンドマイク)
- ウ 避難
・「1年生女子、2年生女子、3年生女子、1年生男子、2年生男子、3年生男子の順で走りなさい。遅れる人がいれば、3年生男子は手を引くなど手助けしなさい。」

- 先頭、最後尾に教職員がつき、避難経路及び生徒の避難状況の確認を行う。
 - ・「避難経路が崖崩れのため通行できません。別経路を通るので、あわてないでついてきなさい。」

エ 点 呼

- 生徒を整列させ、不在者・負傷者の有無及び欠席者の確認をし、教頭に報告する。

オ 指導講評

- ・避難の様子
- ・経過時間
- ・生徒の避難順の意味
- ・保護者との合流地点の確認
- ・安政南海地震の祠について



避難場所から学校を望む

(6) 大島防災センターへ移動



防災教室

大島防災センター長講話

- (1) 大島防災センターの役割

大規模な災害が発生した場合には、施設内に現地災害対策本部を設置するなど災害応急対応策の拠点として整備された。
- (2) 地震直後に何をすべきか
 - ・地震から身を守る
 - ・津波から身を守る
 - ・避難所に着いたら
- (3) 日頃から何をすべきか
 - ・家族で役割分担
 - ・非常持ち出し品の準備

- (4) 津波から避難する6つのポイント
 - ・地震の揺れの程度で自ら判断しない
 - ・避難の時に、車はなるべく使わない
 - ・避難場所、避難経路を知っておくこと
 - ・遠くよりも高いところへ
 - ・避難の際、隣近所への声かけ
 - ・俗説を信じない
- (5) 生徒代表お礼の言葉

学習したことを家族と話し合い、今後の災害避難に生かしていきたい。



3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 地震発生時の訓練では、机の下に避難し揺れが収まるのを待つことや、上部からの落下物やロッカー等の転倒移動について考えた対応をとることができた。3年生は、修学旅行で防災未来センター、震災メモリアルパークを見学していたため意識が高かった。
- ◇ 津波対応では、急な上り坂にもかかわらず生徒たちが真剣に取り組み、誘導することで精一杯で写真を撮る時間もないほど迅速に行動した。また、避難経路が崩れているという設定で行ったため、実際に地震があった場合には複数の避難経路を想定する必要性が分かった。津波が収まった後、保護者が迎えに来る場所についても説明することができた。

- ◇ 県内の災害対策本部として設置された施設内で、災害発生時の対応について話を伺うことで、大島防災センターの役割を知ると同時に、自分の命、家族の命に関わる問題として受け止めることができるようになった。

【課題】

- ◆ 隣接する小学校との合同訓練や、地域を巻き込んだ避難訓練を実施し、より体力のない児童やお年寄りと避難する訓練を実施することができれば、さらに意識の高い訓練が実施できるため、今後検討していきたい。